

公益社団法人埼玉県理学療法士会
令和2年度第6回拡大理事会議事録

1. **開催日時**：令和2年11月17日（火）19：00～21：00
2. **会 場**：インターネット会議
3. **理事現在数及び定足数**
理事現在数 17名 定足数 9名
4. **出席理事数** 17名
出席理事： 南本浩之、岡持利亘、水田宗達、田口孝行、原田慎一、本宮光信、茄子川知浩
矢野秀典、赤坂清和、三宮将一、阿久澤直樹、櫻場勝、吉川貴矩、高宮尚之
田澤俊亮、乙戸崇寛、渡邊賢治
欠席理事：なし
5. **監事現在数及び出席監事氏名**
監事現在数 2名
出席監事：前園徹、清宮清美
欠席監事：なし
6. **出席部長・エリア長・委員長**
出席：知久逸平、塚田陽一、鈴木昭広、渡邊孝広、中島智博、藤崎圭哉、柳田千絵、宮田順子
馬場裕之、奥村篤史、菅野岳、遠藤浩士、高野敬士、木勢峰之、新井武志、西尾尚倫
石井貴朗、村田佳太、佐々木洋平、坂田修、榎本隆、原和帆、長島秀幸、吉田侑貴
宇野潤、米澤隆介、大沼貴広、田方逸郎、斉藤尊大、栗原慶太、芝崎伸彦
菊地裕美、原嶋創
7. **出席部員**
飯塚雄大（北部ブロック熊谷エリア長代理）、渋谷沙也果（書紀）
8. **議長の氏名**
南本浩之
9. **議 題**
<計画内審議>
なし

<計画外審議>
なし

<報告事項>
【事務局】LINEWORKS 審議
【財務局】9月末までの会計収支報告について
10. **理事会の議事の経過の要領及びその結果**
 - (1) 定足数の確認等
冒頭、本理事会はインターネット会議のため出席者の通信状況を確認し、問題なく進行できることを確認した。また、議長が定足数の充足を確認し、本会議の成立を宣言した。
 - (2) 議案の審議状況及び議決結果等
<その他事項>
○事業計画シートについて
○令和2年度重点事項（案）について

○事業計画シートについて

【事務局】

(総務部)

知久：今年度から県庁への電子申請を事務平井さんをお願いしている。課題に関して、補助金申請が担当者によって裁量が違う場合がある。私の判断では難しいため、高橋税理士事務所の栗田さんに随時相談していきたい。公文書に関して、事務員と総務部にメールを頂ければと思うが、どちらか一方だけでなく両方にメールを頂ければ助かる。

(庶務部)

塚田：行っていることは毎年変わらない。理事会に関してはZOOMを用いることになり、以前よりもスムーズになっている。代表者会議に関しては9月、10月にZOOMにてコロナ関連のものを行った。会場でやるよりも時間的な制約が少なく非常にやりやすかったため、今後も同様の形で検討していきたい。

(総会運営部)

鈴木：今年度の総会はコロナ禍で急遽ウェブ開催という形で行った。来年度総会については理事からの意見より、会場参加者を制限してウェブ開催等を利用したハイブリット形式での開催準備を進めていく。選挙管理委員会と共同で進めている選挙の投票システムは、12月中旬に試験運用する予定。準備ができ次第協力の連絡をさせて頂く。審議にあがったアンケート機能については業者と調整していく予定。

(管財資料部)

渡邊：昨年度末に備品の管理シートを作成して頂き、各部局で所有している県士会の備品を台帳用いて管理している。各部局から申請して頂き備品のナンバリングを進めており、台帳に記載し後で部局に返すような状況となっている。まだ台帳に載せていない、報告がない部署は引き続き部局で管理している、県士会で購入された備品等の申請申告をして頂けると管理がスムーズになると思う。事務室で議事録等のファイルが多くなってきているため、環境整備として棚の整理を進めていきたい。

(厚生部)

中島：今年度はコロナの影響で交流会の機会、イベントが全て中止となっている。厚生部の活動は全て交流と飲食を伴う活動のため感染リスク拡大というところで中止せざるを得ないという状況。交流の機会、イベントが殆どない分、県士会会員にどのように還元できるものかを考えており、例えばクリアファイルやアルコールシートを会員に配布するという事も検討している。その際、クリアファイルに関しては県士会のロゴを入れて県士会の啓発になればと思っている。ロゴ等をどのように使っていくかはまた相談させてもらいたい。研修会等々が中止になるため、託児室の利用も殆どなしの状況。唯一動いた団体保険は8月13日に今まで確定契約だったが、暫定保険料で更新している。暫定保険料に関しては、今年度8月13日から来年の8月12日までの1年間の活動実績をまとめて、最終的に来年8月に金額が確定する。活動した議事録等で参加人数等々を把握していくので、活動があった際は議事録の作成を引き続きお願いしたい。

(労務管理部)

藤崎：給与計算は例年通り順調にしている。事務局の中島さんが在宅勤務を併用しながらの勤務になっているため、職務規定の改定を検討している。勤怠管理に関して、宅勤務の時間については出勤ごとに中島さんがタイムカードに手書きをし、それを平井さんがまとめている状況。クラウド上で勤怠管理ができるようなシステムを検討中。何社かからパンフレットを取り寄せており、事務局で見てもらい良いものがあれば担当者と連絡をとって少しずつ試験導入から本導入で進めて行ければと考えている。

中島：交流という部分でどのようにイベントを企画していけばいいか悩んでいる。厚生部として県士会会員に有益になるようなイベントはないか皆さんの経験の中から助言があれば頂きたい。

水田：対面で集まって行うのは難しいと思うがそれに代わる案があれば頂きたい。

岡持：ZOOMで交流会を行った所はあるか。飲み会とまでは難しいと思うが、北部ブロックでは代替手段でこういうのがあったよというのがあれば。

米沢：南部ブロック県央エリアではZOOMで7月に交流会を1度、臨床で使える情報交換会という形で

行った。一般から6~7名が参加。ZOOMで交流会となると、集客でどうするかという課題を感じた。行ってみると参加者で盛り上がって楽しかった。小規模から始めて情報交換が楽しいというのが積み重なっていくと将来的には可能性があるかもしれない。広報などで魅力的な企画であることをアピールしていくかはかなり検討が必要だと思うが、ひとつアイデアだが、県士会でYouTubeチャンネルを開設されたと思うので、それを活用して動画を流しながら自由に視聴者としてコメント欄で参加してもらうなど、そういう形での交流会の催しができるのではないかと思う。

【財務局】

(出納部)

柳田：会計の皆さんには大変な思いをされていると思う。報告をあげてもらっているが会計入力の事務員の負担が大きくなっている。県士会でクレジットカードを作った。必要ならば声掛けをしてほしい。

(会費管理部)

宮田：未納退会は昨年よりも減っているが、蓄積された人たちが削除されたということ。楽天カードで引き落とされている。去年よりは減っているが入ってくる人も少ないという状況。入っていない場合、各施設に新人さんに入ってもらおうことを考えていかなければならないと思う。

本宮：会費の件だが、今年度の中間決算でも会費収入が予算よりも170万ぐらい少ない。

(財務渉外部)

馬場：例年同様、源泉徴収の納付を行っている。賛助会員は、今期新規で1件追加、退会が1件で合計18件となっている。広告料請求に関しては随時発送させて頂いている。

本宮：今年度も会計関係でご迷惑をかけている。会計担当者の常勤雇用を進めている所。うまく採用になるとやり方を変えられると思うので来年度以降で検討したい。

南本：賛助会員を退会されたところと入会されたところはどこか教えてほしい。

馬場：1件無くなった所に関しては、業務を閉じるということで退会という形。新規に関しては株式会社GENEが追加申請あり。

南本：閉じる所はどこかメールでもいいので教えてほしい。会員の動向は私の方でも追っていて、今年度はこのコロナ禍において、いつも増える6月や8月が少ない。総会や夏の新人歓迎会など増えている傾向があるが、今年度は少ない。毎月に関しては例年と変わらない。そこが影響しているのではないかと。水田副会長も相談しているが、新入会員を気にしている。今後も検討していきたい。

水田：会計担当の常勤雇用を進めて頂き、各部の会計担当の負担を減らす方向で考えている。

田口：新入会員が減っているという話で、新人教育プログラムもeラーニングになったのでそのせい新人研修会を行わなかったなのでその影響は強いかもしれない。

【事業局】

(高齢者福祉部)

奥村：6つの事業を計画して臨んだが、コロナ禍の影響で彩の国老健広場、生活期リハビリテーション研修会のケアマネージメントについてというものが今年中止。昨年度2月に予定していたものを延期し、それをオンラインで開催していくという形になっている。3団体で行っている彩の国リハビリフェスタについては毎年体験型のイベントということで今年できていない。今は企画中だが、中学生、高校生、専門学校生を対象として現場のリハビリテーション専門職と話してみようということでZOOMを利用して直接仕事についての違いやリハビリテーションについてということを通じて直接話せる場を設けて2月頃に実施できるよう企画中。

(小児福祉部)

茄子川：今年度は療育関係者の研修会、通園施設会の研修会、発達障害研修会、子供の福祉機械リハビリテーションマップと事業があるが、他団体との合同の研修会のためコロナウィルス感染症の影響で殆どが中止となっている。来年度は新しい開催方法を検討しながらやっていこうかと思う。

(健康増進部)

菅野：理学療法フェスタへの協力事業と埼玉県さいたま市、OT に行っている若年性認知症イベントの支援事業の2つが新型コロナウイルスの影響で中止となった。一般公開講座と介護保険サービス事業所支援事業は従来研修会のような形のものだったが開催が難しいため、代替案としてこれまでの事業の内容をリーフレットのようなチラシのようなもので配布することを検討している。

(スポーツリハビリテーション推進部)

遠藤：例年スポーツサポート事業を行っているが、今年度はほぼ中止となっている。基本的には日本理学療法士協会や各都道府県と足並みを揃えていきたいと思っている。競技団体と運営の話し合いが今後必要になると思っている。ボート競技に関して、選手や家族、指導者向けの間接的な支援活動として動画を作成している段階。今年度中に配信したい。スポーツ支援の研修会は、第1回のスポーツリハビリテーション技術研修会ということでテーピングの研修会を行った。オンラインということと、ペアということで壁が高いのか現在1組。2回目は3組。通年行っている研修会とは全く違う形で行っている。具体的にどう行っていくかは検討中。

南本：オリパラの件はどうなっているか。

遠藤：基本的に具体的にオリンピック、パラリンピックから来年どうしていくかの話はない。昨日の報道でバツハ会長からオリンピックを進めていくということで、一部観客を動員した形でやるということだったが、実際にどのような形でやるかはこれからだと思う。研修会に関しても今年度はほぼないが、ボート競技で関わるスタッフとしてはモチベーションがかなり落ちている状況にあるので、そういう人たち向けの研修会をウェブで今年度は企画したいと思っている。

田口：テーピングの講習会は今現在1組とか、2組という状況だが、これは病院や法人の方針で対面研修会への参加が許可されていないから参加ができてないということか。

遠藤：今年度ウェブ研修で今までやったことがない形で開催した。PCや携帯で2人ペアで実際その人達が行っているところにアドバイスをしたりオンライン上で指導できるということ売りにしたが、若い子だと場所を借りたり、個人宅へ行くのは敷居が高くそれで人数が少ないのではないかというのが他のスタッフからの意見があった。トライアンドエラーで来年度以降の企画に反映できるものを経験したほうがいいのではないかと思う。

田口：オンライン上での実技がネックだったという事だが、少人数でも集まって行うのは難しいか。

遠藤：個人的にはそれで行いたいですが、現在行っているところが少ない。フェーズが変わってきて感染者が増えてきている状況で、またどこまでできるのかなとは思っている。

原田：事業局については実技を非常に大切にされていると思うが、特に集合型研修については高齢者福祉部の失語者向けの意思疎通支援事業ではチェックシートを用いて実際に行っています。こういったものを使用して安全に実施可能かどうかを検討しながら進めて頂ければいいかなと思っている。ウェブを用いた新たな方法を検討して欲しい。

南本：対面式で事業局の高齢者福祉部のほうでST士会からの要請があつて行ったと思うが、対面研修の所で渡邊さんから意見はないか。

渡邊：すでに先週日曜に対面で実技の実績がございます。取りまとめをして対策を、早急に対面でできる対応を考えている。

南本：他に質問はあるか。いま一番難しい局、部の集まりではあると思うが、なんとか活動を来年度含め考えてほしい。

田口：来年度も一般市民を対象とした研修会が難しいことが考えられると思う。高齢者や一般参加者へ専門性をテーマとした研修会をそれぞれの事業で行っていると思うが、それ以外に、全く違う、ウェブの使い方というような講習会のようなものやってみてオンライン上でやっていくということも考えられるのではないかと思います。

茄子川：新たな取り組みの仕方という所も踏まえて来年度検討が必要ということで相談しながら決めていく。

【広報局】

(広報誌編集部)

石井：広報誌の発行と今年度からの事業としてリーフレット発行がある。広報誌の発行に関し、新型コロナウイルスによって特集や取材が難しくなっている。今までのコンテンツ内容での発行が難しい。今まで年2回の発行だったが、今年度は年1回の発行を検討している。リーフレットは今年度を目処に発行予定で進行している。

(インターネット管理部)

村田：今年度の課題として講習会情報の専用ウェブサイトを立ち上げているが、テストページを最終調整中。今まで出ていなかった生涯学習ポイントで新プロのポイントや専門認定のポイントがすぐ分かるように改良されており、早急に運用できるよう尽力していきたい。コロナ禍の情勢で情報発信の媒体として県士会独自のYouTubeチャンネルを立ち上げた。第29回県学会の広報動画をまずは公開している。行く行くは管理者を各局の各部長に追加し動画配信できるように考えているが、現状ではまだ至っていない。動画はGIGAファイル便でインターネット管理部に送って頂きその後動画配信をしていきたい。他部局と連携して数を増やしていきたい。先程の2事業に関してはマニュアルを並行して作成中。他事業は例年同様運営中。

(理学療法週間推進部)

三宮：コロナの影響で事業自体は中止となっている。代替案を検討中。YouTubeチャンネルを活用し運動指導等を検討したいと思っている。協会から理学療法習慣の推進を始めて下さいとのメールがあり、部長と相談しながら進めていきたいと思っている。

原田：YouTubeの活用については需要があると思うので引き続き宜しくお願ひしたい。理学療法週間推進部については今までやり方が異なるものが求められると思うので検討を。

【学術局】

(理学療法編集部)

矢野：例年通り。年1回の学術誌発行となっている。新システムでインターネットから受付、査読も順調にしている。編集会議が中々できず、ネットかメールでのやりとりとなっている。

(研究推進部)

高野：研究補助金事業と研究サークルになる。研究補助金事業は昨年補助金を増額してもらい、今年は臨床部門で3題、基礎研究部門で6題の申請があった。ZOOMで審議をしたが、合計7題に補助を出している。研究サークル事業は元々対面だったが一部ZOOMを利用し少しずつやっているが、昨年までほどではない。これらもやり方を考えなければと思っている。

田口：新コロナで事業自体が縮小してしまわないように、検討してもらえればとういことでコメントを書いている。査読の話だが、安定してきたということで伺っているが、もしばらつきがある、また今後査読者を増やすにあたり、埼玉県雑誌は教育的な側面も含んでいるため、査読者の研修会を開いてみてもいいのではと思う。査読者をお願いするため日当も発生することもあると思うが。投稿システムが浸透してきて、様々な施設からの投稿が増えてきているということだが、さらに投稿を増やしてもらおうところで、埼玉県の学会で投稿システムの方法を説明できるチャンスを作ったり、論文作成のヒントのような企画があってもいいのでは。それによって発表者がどんどん投稿してくれるという形に進んでいければと思う。研究推進部のほうで、サークルの活動の話があったが、なんとか広げていくようなあるいは継続していくような形を模索して行ってほしい。ZOOMで3回分やってやっと1回の対面になってしまうということでもいいと思う。ぜひ実施するという方向で検討頂ければ。

矢野：査読者は15~20人程度。県学会としてはかなり多い方。県学会で発表者にチラシを配っている。新しいシステムを使った投稿の仕方は慣れていない方にはとまどいが所もあると思うのでピラを作ってみてもいいのではないかな。

田口：論文作成のヒントみたいなのをどこかの学会でもやっているのでも県学会でもあるといいなど。

【教育局】

(認定・専門研修部)

木勢：来年度の新生涯学習プログラムの開始に向け、認定専門ポイントの駆け込み需要を見込んで上半期に8回の研修会を企画していた。また、子育て世代でもポイントがとりやすいよう、全ての研修会に厚生部の協力を得て託児所も設ける予定で動いていたが全て中止になった。ウェブ研修会を開催するにあたり、上半期では8月2日に1回だけ行った。金銭面のトラブルを懸念し、今年度は全て、県士会ないし学生は無料で実施した。第1回は問題なく終了。今月の頭に第2回も無事に終了。今後の予定としては、第7回まで全て講師の快諾を得てZOOMで開催予定。理学療法士講習会に関しては、上半期は募集の時期がなかったが、今年度は2つ申込みがあり、協会に提出したところ。

(新人教育部)

新井：認定専門の駆け込み需要を予想し、例年4回新人研修会を行っていたところ、定員を増やし受け入れる体制で計画していた。コロナ関係で対面での研修は中止。遠隔で行うにも、協会指定のコンテツでやるのが決まっており、協会からeラーニングの受講を推奨されている。6月ぐらいに今年度の新入会員については通常有料ものを無料にする手続きをしてもらった。結果的に終了率が伸びているわけではない。時間があるので、新人さんは今年度無償で受けられるのでこの機会に受講して頂くようお願いしたい。

(臨床実習教育部)

田口：昨年度より臨床実習指導者講習会を中心にやってきている。昨年度から始まった講習会。昨年度は臨床教育実習の方法についてなどという研修会を開催した。今回は臨床指導者講習会の講師を対象にした研修会を主とした。講習会の質の担保、よりよい実習の指導に向けてもらうということで今年度はこの形とした。養成校の情報交換会ということで基本的に養成校の開催で進めている。養成校12校の教員が連携を取り情報交換をしながら進めている。今まで以上に養成校の絆が深まったように感じている。来年度以降、臨床実習指導者講習会を行っていくが、終了者のスキルアップの研修会も開催していかなければいけないという話をしている。

(指定管理者研修部)

西尾：例年通り、初級を2回と領域別をそれぞれ1回ずつ計6回の研修会を企画。今月と来月実施で、一昨日開催した。今まで対面でグループワークをやる形だったが、コロナの事情でZOOMで行うことになった。今までも参加人数が少ないのが課題だったため、ポイントをつけてでも参加できるようにという形で、領域別に関しては休日に開催し、時間を伸ばしてポイントをつけるようにしているが、まだ参加人数は少ない。引き続きオンラインでできる形で模索しながら進めていければと思う。

田口：認定専門の研修会のところで、8月に1回開催し、今回8回予定していた中の7回目までウェブ上でも開催することを企画してもらい、大変なご苦労があったと思うがありがとうございます。生涯学習システムの移行が1年ずれたが、来年度も研修会の開催方法は変わらないと思うので継続をお願いします。参考までに先日の参加者はどれくらいだったのか。

木勢：一昨日は40名以上だったと思う。第2回からは全てスタッフを含めマックス100名になるように、85名で募集したので、少ないほうかと。

田口：ウェブ開催なので多くなることを期待していたが、なかなかそうではないということで理解した。その原因も探してほしい。また、無断欠席が多かったという話も聞いている。この点については参加者に注意を促していかなければと思う。新人教育プログラムの県で、eラーニングの無料化ということでご意見を頂き、この形で進めていければと思う。新人教育プログラムの広報をして、受けてもらい会員になってもらえる工夫を考えて貰えればと思う。臨床教育部に関しては先程話した通り。臨床実習指導者講習会については今期も9月まで行ってはいけないという状況だったため行えていなかったが、10月以降は全国的に開催になっている。埼玉県内でも12,3回は開催する方向で進めている。これに関してはまだ対面やっている。3月以降は対面でなくてもできる方策を協会考えている状況のよう。指定管理者研修については今までもだが参加者が難しい。研修会に出たことをきっかけに、ネットワークづくりにもっていきたい。講師の方々がほぼ部員的な形で働いてくれている。ネットワークづくりを今後検討していきたい

い。県士会の方針として、研修を受けた人が1人か2人いるという目標に広めていきたいと思っている。

【職能局】

(業務推進部)

阿久澤：ダイハツや県警との連携事業。日本全国のほうのダイハツと日本協会のほうで秋のシリーズをやろうという方針で、他県では開催されている実績があるが、さいたま市のほうで感染者の状況を鑑みストップがかかった。年度明けに開催できないかということで適宜ダイハツと連絡を取り合いながら調整している。地域リハ相談窓口体制の構築促進という、今年度新規で計画したものは、明確なやり方が想像つかず、会議自体の開催を据え置きしていた。年度終わりに向け会議を開催し、事務局機能と関わってくる部分のため、在り方を含め1度話し合いの機会を設けさせてもらえればと思う。職能局全体会議等はオンラインで行っている。

(医療保険部)

阿久澤：全てオンラインで開催している。医療保険診療報酬に関しては、オンラインで開催したが、第1回は協会の講師の先生をお招きしてうまく研修が成り立った経験が積めた。第2回は高野部長に講師をしてもらい、部員がファシリテーターで実施。サービス内容を充実させる研修会については、新型コロナウイルス感染症と理学療法というテーマで、上尾中央病院の小野田先生と、川崎市立川崎病院の野田さんに講師をして頂き、新型コロナの最前線のリアルな現状とそこに向き合う理学療法士の在り方をお話頂いた。参加人数が少なかった。企画の問題なのかもしれない。スケジュールの関係や働き方もあり、時間の拘束をして人を集めるのが難しいのかなど。計画外審議で講演の動画をオンデマンド配信という形で、都合上参加できなかった人たち向けにYouTubeに限定配信で、ある一定期間を設けた形で配信できないか理事会で検討頂ければと思う。

(介護保険部)

佐々木：今年度は3つの事業を企画。2つに関してはコロナ禍における事業所運営の情報交換を主に行っている。1つ目は8月に実施。内容としては緊急事態宣言下における事業所運営の振り返り、2つ目は明日行うが、コロナ禍で失われたサービスをどう補完するか、グループワークを中心に話し合う場を設けたいと思う。これに関してはまだエントリー募集中。当日でも可能。3つ目に関しては、令和3年度に介護報酬改定があるため、それに関わる研修会を、年度末に近くなると思うが企画している。

(地域包括ケア推進部)

阿久澤：推進リーダー研修、介護予防、地域ケア会議ともに、もともと1日研修を会場で行っていたがオンラインに切り替えて実施。オンラインで1日はなかなか難しいため、半日のプログラムに変更。協会に確認したところ、3時間以上の研修時間をとり、内容を網羅してもらえれば推進リーダーのポイントをつけられるとのこと。時間内に収まりきれないものに関しては、YouTubeの限定配信を使って、事前学習をしてもらった上で当日ZOOMで行った。やった感想としては、無駄が省けてプレゼンの質が高まった部分があり、内容的には問題なく開催できたと思う。12月の2回目も同じ内容で行う予定。地域包括実務者ブラッシュアップ研修に関しては企画中。今年度はオンラインであるため、遠方の先生にもオファーしやすい状況。埼玉の現状や課題に鑑みた講師の方を招きナイトセミナーになると思うが研修を企画している。

阿久澤：相談だが、審議にあげたいが動画が重く、審議に挙げる際にもギガファイル便を使用している状況。道義的には理事会審議を通し承認を得てからYouTubeにアップロードするというのがあるが、動画が出回るリスクもあり、限定配信という形でYouTubeにあげてから審議にあげるといった手続きのほうがいいのではと感じている。

三宮：動画配信にあたり、一般公開してしまうと広まりすぎてしまう。限定公開にするのがいいのではと。URLをつけて見られるほうが情報が広がりすぎずいいのではないかと思う。

村田：ラインワークスで普通の研修会で承認をもらっている方法だとかなり重たくて難しいと思う。限定公開という形で、YouTubeチャンネルにあげて、それを理事の方々に見てもらう方法が妥

当なのではないかと。私の方であげるのは手間ではないので連携してやっていければと考えている。

阿久澤：今回はギガファイル便で送った。時間制約を設けた研修会に参加するというのが少ない。いつも同じ顔ぶれというところを感じている。会員に対し、学ぶ選択肢を広げるという部分ではYouTubeの配信だとか、限定配信で申し込んでもらうのはありだと思うので引き続き検討をお願いしたい。

水田：オンデマンドには賛成。他の部局にも広がっていければいいなと思っている。子育て世代は19時から参加するのは難しい部分もあるので。ぜひ広げてもらえると会員の大きなメリットになると思う。

阿久澤：引き続き相談で、講師料をどうしようかなというのが悩みとしてある。今回はご厚意という形でそのまま流さしてくださいというふうをお願いした。新しい企画として出すのであれば、本来であれば研修企画の段階で、当日版と当日のものを視聴申込という2つの窓口がある研修会を企画すれば講師料としては1本でいけると思う。

南本：YouTubeの限定公開の件。審議の仕方の部分の提案があったと思うが、インターネット管理部のほうで良ければ、ここで決定の形のほうが、ギガファイルも使う、YouTubeの限定も使うというふうにならないので、動画配信に関してはYouTubeの限定URLを理事に審議の時につけて見て頂いて審議をするという形で決めたい。理事で賛成の方は挙手を。

本審議は全員賛成にて承認された。

南本：三宮理事それをお願いしたい。

三宮：了解した。

南本：オンデマンドに関してはYouTubeで理事に限定URLあげて頂いて。くれぐれも内緒でダウンロードしないというのを理事には遵守いただきたい。

阿久澤：研修扱いという形で、あくまでも限定配信といった内容で一般の人でも見れるような公開型のものでなく、研修コンテンツとして理学療法士会のチャンネルを間借りさせてもらえればと思っている。

岡持：こうやったらできるよというようなアイデアを出しやすいと思う。職能局は会員向けの事業が多いと思うので、テストケースをしてこういうふうなやり方をトライアルをしやすい部局だと思うので引き続き工夫をお願いしたい。特に会費を払うメリットがないというのを部分を打破したいと思っている。やり方を変えて、方法を変えて目的を果たすという形で引き続き運営を企画してもらえればと思う。

【各ブロック】

(東部ブロック)

櫻場：各エリア同じような状況。交流会と啓発活動事業はコロナの影響で今年度は全て中止。研修会各エリア各2本ずつ企画しており、全てZOOMで行う予定。11月から2月の間に全て6本やる予定。

(南エリア)

榎本：第1回研修会を12月7日に行う予定。エリアの中で横の繋がりが希薄になるという意見が会員からあったため、そこを打破する企画を検討している。

(中央エリア)

坂田：12月、1月の研修会の審議をかけている。

櫻場：ブロックの中で地域性をどうしていくかという中で、顔の見える関係を作っていきたいので対面の研修会を一番やりたいところではある。ZOOMでやって地域性をどうだすかを課題に考えていきたい。

(西武ブロック)

吉川：公開講座は7月に企画していたが中止。ブロックの研修会は企画しており、1月、2月の

ところで座学でZOOMでという形で準備している。各エリアの運営会議等は以前よりも数多くなっているのが現状。市町村連携で交流会という形だが、交流会費をどう使っていくか、横の繋がりをどうしていくかが悩み。

(秩父エリア)

吉川：11月13日（金）にZOOMにて研修を行った。約20名で行えた。色々なトラブルがあったとは聞いているが、詳しい内容は会議で話したいと思う。

(三芳エリア)

吉川：ZOOMで会議を開いた。研修を組みたいということでエリア長が考えているところ。

(川越エリア)

原：始動が遅れたが12月に研修会を、年明けに症例検討会を予定している。施設内で新人が発表する機会が減っているため、それをきっかけに症例検討会を行うことになった。今までは交流会も含めて、初めての発表の方は他施設からアドバイスをもらい、それをまとめて発表していたが、今回は難しそうだったため、施設内でアドバイスをもらいながら症例検討できればと思っている。オンラインが続くようであれば、来年度は他施設とZOOM等を用いながらアドバイスをもらうかたちで行っていかねばと考えている。

(所沢エリア)

長島：例年、症例検討会については各施設の新人教育の育成プログラムに組み込まれているため参加者が多い事業になっている。コロナの状況を踏まえ、今年は発表者が多いだろうということで、症例検討会に注力して研修会は中止という形。症例検討会を1月、2日間に渡って開催予定。

(南部ブロック)

高宮：ブロック全体としては基本的にはオンラインで開催。公開講座は中止とした。

(県央エリア)

米澤：対面での研修と症例検討会を企画したが、全てオンラインでやることを検討した結果、準備期間がないということで、研修会1は中止とした。研修会2はオンラインで残り2つのエリアと合同でブロック研修会として9月に行った。3日程で述べ74名ほど参加があった。研修会の会場費や資料代、旅費が無くなったことで予算執行が危惧されたが、準備会議を増やした結果77%ぐらいは執行できた。研修会3はこの裏で開催したが、無事終了。12月8日に症例検討会を予定している。交流会は第1回を7月31日に行った。参加者は少なかったが盛り上がった。飲食ができないため予算をどう使うか理事と相談した結果、情報交換会としてグループティスカッションでファシリテーターをつけるということで運営委員がスタッフとして働いたため、日当を請求した。交流会2はエリア内で検討中。

(南エリア)

吉田：対面での研修会2は中止。研修会1は3エリア合同で行った。さいたまエリアと合同で10月19日と30日に行った研修会は、述べ46名が参加。第1回のブロック研修会のノウハウと事後会議の結果を受け、配信会場をそれぞれ用意し、レンタルワイファイを借りたが、通信状況により画像が見にくいなどの一部トラブルがあった。アンケートでは参加者の満足度が高かった。交流会、地域連携会議は中止。症例検討会に関して、このままオンラインであれば来年度はオンライン形式での開催を検討している。

(さいたまエリア)

宇野：2事業の他に情報交換会を行った。今年度は診療報酬改定があったので13名の参加者のもと情報交換を行った。

高宮：ブロック研修会を述べ5回行った。事前に資料を配布したこともあるのか、事前キャンセルが多い印象だった。資料についてはどう配布していくか検討課題だと思う。現状ではオンラインで組むしかないと思うが、状況が許せば対面のニーズが非常に大きい。予算を大きく超えるようであれば、補正予算を審議に上げる形になると思うが、財務的には問題ない？

本宮：大丈夫だと思います。特に問題ないと思います。

南本：増額理由と事業の必要性とお金の使い方ということで審議を上げてもらえれば良いと思う。

(北部ブロック)

田澤:全体として、基本的に研修会はウェブに切り替えた。

(熊谷エリア)

田澤:エリア研修会とブロック研修会を行った。療法士ならず、多職種にも広く声掛けもしてもらい充実した。初めての取り組みだったため、対策としてパワーポイントでZOOMの使い方の研修をしたり、研修会前にZOOM操作の練習会の時間を設けて、より参加しやすい工夫をした。

(東松山エリア)

大沼:北部ブロックの公開講座を担当していたが見送り、ウェブ研修会を2月にオンラインで予定している。市町村単位では交流会なしで、東松山引地区で各施設でのコロナ対策の取り組みについて情報交換を行った。参加者は18名、14施設、PT15名、OT3名だった。来年度7月に今年度予定していた公開講座をオンラインと対面のハイブリッド式にて開催予定で準備中。

(坂戸エリア)

田方:市町村会議を1回ウェブ形式で15施設集まり、コロナに関する施設の取り組みについて検討した。研修会に関しては明後日リスクマネジメントという形でグループワークを予定してウェブ研修をする。年明け2月に研修回2,3回、ハイブリット形式で行う。認定と専門ポイントということで、講師を招き、投球動作の研修会を予定している。対面での実技を行う研修会場の確保が難しく確保できていない。公共施設や自分たちの勤めている施設を考えているが、その法人で研修会を開いてはいけないというお触れもあり、難渋している。

(深谷・本庄エリア)

斉藤:今年度の症例検討会に関しては中止とした。リハ研修は10月16日に実施、2回目は11月27日に予定している。エリア研修の課題としては、ウェブのためか参加人数があまり多くなく、10名程度にとどまった。また、質問が出てこない問題点があった。工夫点はチャット機能を利用し、質問がある場合は運営委員に送信するよう対応したが、なかった。今後はその点が課題になると思う。

田澤:毎年恒例のバーベキューは中止。次年度どうかたちで横のつながりを維持できるか考えていきたい。交流会費の充て方に関して、今まで3,000円つけていたが、ウェブになりどう予算建てをしたらいいか、今年度・次年度取り組みをしたいので明確にしてもらえればと思う。深谷で10月に研修をしたが、標準テキストを使用しC以外で単位がとれるというものだったが、研修会後に準じていないことが発覚した。参加者へのアフターフォローをどうしたらいいか。

南本:交流会費に関して。東西南北一緒だと思うが、ブロック理事がどう考えているか。ある程度の士会の目安のアドバイスという理解で話すか、ウェブでも同様に充てていいかということか。

田澤:参加者に交流会費として今まで会を行っていた。そこをウェブ上でも同様に充てていいか。

南本:先程、南部でやられていた話があったと思うので、実際どうしたか。

高宮:南部エリアは企画にあたり、飲食を伴うところで現物支給だったが、それが難しいため、企画段階で名目上は交流会ではあるが、他の会議や情報交換会と類似する役割や内容になるため、それに準じて動く必要性のあるスタッフに日当を支払うということで対応した。

南本:交流会という形式にしたり、手伝って頂ける日当に振り替えたりで企画力というところで捉えてもらえれば。

吉川:西部です。会議費として日当ですよ。人件費。交流会費という設定していると思うが、今の所だとスタッフとしてであれば、日当でいいと思うが、交流会ということで参加した場合は交流会費という名目だと悩む。やり方の変更ができるのであれば。

岡持:会場がお店だったから補助されていた。オンラインで参加の場合お店の補助は発生しない。自分の時間を使ってブロックの活動を深める、士気を高めるとうことでブロックの運営に寄与してくれているという考え方で検討してほしい。

南本:店ではできない。横のつながりはブロックの力を注いでいた部分。どうやったらできるのか。トライアンドエラーで、新たな交流会の部分を出していただけるといい。名前を変えてもいいと思う。合流会から互助会みたいところで変更していくのもいいと思う。

南本:他に質問は。県民向けは難しいと思うが。

岡持：細やかな計画と実行ありがとうございます。市民向けのものは集まらないが、資料が貰えるというような別のやり方や、研修情報発信の企画、代替方法の検討・工夫をして頂けたらと思う。会員向けについて、メリットはブロックは身近な距離感ででき、面白いことがやれると思うので引き続きお願いします。

田口：教育局の内容と類似した形でやっていると思う。教育部の各部と研修会の連携体制がとれないかと思っている。認定専門に関する研修会はブロックでも行っており、新プロのポイントに関する研修会はやっているが、難儀しているところはないかスムーズ進められる体制づくりを進めていければいいのでは。講師を紹介するなど。養成校のつながりを利用連携したりとできたら相談に乗って頂ければと思う。

原田：一般向け啓発事業に関して 県民に伝えたいことがあれば広報誌のコンテツがないため、内容の提供など協力が貰えればありがたい。

米澤：YouTube チャンネルに乗せる動画は1本あたり何分とか上限は。

原田：アップロードしてみて検証していきご報告する。

米澤：研修会のPR動画もあげていきたい。

【委員会】

(財政基盤検討委員)

特になし。

(表彰委員会)

水田：県士会員の表彰者が増えている。後任人事を検討してほしい。

(組織検討委員会)

水田：特になし。

(運営基盤)

南本：後ほど説明する。

(選挙管理委員会)

水田：来年度役員選挙。電子投票システムの導入を進めている。

(第40回関プロ学会準備委員会)

水田：今年度視察予定だった茨城の学会が中止となった。新潟で来年度の学会を準備中で、ハイブリットを開催予定しているとのこと。それを視察に行ければ行きたい。来年度は組織を作って運営していく。

(50周年式典準備委員会)

塚田：特になし。

(国際スポーツ競技大会)

遠藤：今年度のオリンピック・パラリンピックの中止に伴い、大きなイベントが無くなった。来年度は行う前提で、人数を少なくしたり、実技が行えるよう検討していきたい。

(埼玉理学療法学会評議委員)

矢野：関プロとかぶる年についてはまた検討したい。

(第29回埼玉県理学療法学会)

栗原：87演題頂いている。3週間前から広報をかけている。240人程度の応募。当日のライブ配信の他、その後2週間程度オンデマンド配信をする。

南本：皆さんで学会の広報を、職場やブロック、交流会で広めて貰えれば助かる。

(第30回埼玉県理学療法学会)

田口：特になし

(専門性委員会)

乙戸：9月から2つの委員会の立ち上げを準備している。装具療法地域連携対策委員会は埼玉県総合リハビリテーションセンターの中野先生が発起人となり進めている。学校保健特別支援教育推進委員会は埼玉医科大学総合医療センターの大熊修先生が中心で進めている。埼玉県士会のホームページで10月31日までの1ヶ月間に部員の募集をしたところ、装具療法は24名、学校保健は15名の希望者があり、名簿の提出がそれぞれ出されている。現在、学校保健は11月27日(金)に第1回目のZOOMミーティングを予定している。装具療法については希望者が多いた

め、12月3日と4日に分けて第1回のミーティングを予定している。12月上旬までに事業計画と予算案を提出しなければいけないため引き続き進める。

(がんリハ)

特になし。

(糖尿病対策員)

乙戸：先週金曜に会議をしている。来年度の事業計画と予算案に出席したが、順調に来年度の計画が進んでいる。

南本：新しい委員会を作って頂いているが、立ち上げに時間がかかるのではないか。このあたりのシステムの見直しを、担当副会長で新分野開拓委員長でもある田口先生とスピーチーにシステムが動くよう検討してもらえればと思う。

(職能委員会)

(訪問リハ)

柴崎：ベーシックコースは今年度はコロナの影響で中止。毎年実技を行っているが、次年度についても検討中。アドバンスコースは2月にZOOMで行うよう計画している。重点事業で小児リハやがんリハのコラボを進めてとあったができていない。三団体に動いている為難しいが、PTだけでコラボしていければと思っている。会計から日当の件で問い合わせがあった。通常であれば、4時間以内の会議で2,000円のところ、本事業では埼玉県理学療法士会から1,000円と三団体の訪問実務者研修の財布から1,000円出している。その点を周知してほしいのと、問題があれば教えてほしい。

(災害対策委員)

菊池：研修は10月にベーシックコースを行った。定員以上の人数が集まった。動画をとって流したりと対応した。12月5日に同様のものを開催予定で募集中。埼玉 JRAT の災害リハの活動をPR動画としてフェイスブックにあげていくため動いている。2月にアドバンスコースの開催を目標に、演習内容を動画を受講生に参加してもらいやすいようにシナリオ作り中。12月のベーシックコースはまだ数名の応募のため、出席して頂けるよう広報をお願いします。

(10年後の理学療法を考える委員会)

原島：理学療法に関する政策規約に関しては、令和3年度埼玉県〇〇ならびに予算編成に対する団体要望書を提出した。政策を推進するための政治活動として、埼玉県にはリハビリテーションを考える議員連盟に所属している議員が12名いる。国政報告会の案内がきているため、可能な範囲で参加していく。今年度と変わらずに事業を行っていく。先日、次期参議院選挙に出馬する組織内在表として、小川かつみ氏が選出された。準備をしていく。

(職業倫理委員会)

水田：県士会内の倫理違反0件で報告はない。職業倫理の普及啓発は今までは代表者会議の場で行っていたが、開催方法が変わりできていないのが現状。

(新分野開拓委員会)

田口：装具と保健で2委員会を立ち上げた。立ち上げにあたりまだ委員会になっていない。立ち上がるまでの活動計画や新たな募集を考えていかなければいけないと考えている。

(新型コロナウイルスにおけるあり方検討委員会)

渡邊：現在、協会としてはステージ4という段階。対面集合、対面技術系の事業については適切な感染予防策を講じた上で、収容定員の半分以下ということで基本的には実施できる。11月15日に実施した、失語症者意思疎通支援はST士会の県の委託事業であるが、高齢者福祉部で実技演習の指導者という形で、PT士会の実技研修がおそらく初めてされたと思う。事前に理事会でチェックリストを作成し、当日運用した。ST士会でもかなり準備がされていた。県の事業ということもあり、県職員が会場に来て会場設営、感染対策を事前確認をして御墨付をもらっている。これを一つの事例とし、今後県士会の活動で予想される対面集合の活用運営のフローチャートを作成したい。チェックリストや備品の取りまとめをしたりして、適宜修正していく形。基本的には対面集合の研修会でクラスターを出さない、濃厚接触者を出さないということを念頭において作成したい。ウェブのメリットも非常にあるため引き続きやってもらいたい。指定管理者研修のなかで様々な情報が入った。年内に研修会を開催したい。県

内でも小規模クラスターが発生してきている。リハで1人でも陽性者が出ると濃厚接触者で職場内でリハスタッフが大きく職場を離れることが想定される。事業継続計画を早急に策定するべきかと思う。各施設で整っていない現状があったため、提示をしていきたい。県民の健康リテラシーが高まっているが我々の情報提供をする機会が無くなっている。攻めの一手として検討していきたい。自粛に伴いDVTの患者さんや転倒外傷が減っていたりと、自粛に伴う県民の健康状態を1度リサーチしたほうがいいのではと思う。コロナ感染対策から見えてきたこれからの活動戦略、守りから攻めの一手と仮のタイトルをつけた。守りはDPCのこと、攻めはこれから県民に情報提供していくかなど、様々な意見を皆さんからもらい、守りしながら攻めを考える研修会を年内にしたいと考えている。

(ブロック連絡委員会)

岡地：ブロックの研修の実施のことや4つのブロックがあり工夫はあるが共有する部分の必要性を感じた。オンラインでの企画が多くなっているため、ブロックの管理者向けにホスト養成講座のような研修を12月頭と松頃にできるよう準備中。

南本：質問意見ありますか。

田口：県内の代表者会議をやっている。指定管理者を職場に一人はおこうとか、災害が多くなっているため、ベーシックを受講し終えている人が職場に1人はいるという目標をもち、進めていく必要があるのではないかと。ブロックと連携体制を進めていけるシステムを考えていきたい。

南本：他に。

岡持：訪問リハ振興委員会は内容が濃いゆえに対面の必要性があったと思うが、それが難しくなってきたためシフトチェンジが必要だと感じた。新規開拓はたくさん受けてくれたと思うので、過去に受講した人向けに、定期的に情報のアップデートができるもので企画し再参加という形で考えられるのではないかと考えた。災害対策は切り替えて情報発信の仕方をフェイスブックにしたり、部員のみなさんが動画作成など楽しんでおり、参加者も増えたように思う。平時の取り組みとして、終了した人にその後の情報が何か資料で届くのもありではないか。職業倫理はハラスメント事項の他県の話を見える化すると抑止になると思う。困ったときに相談窓口を見える化するのも必要だと思う。10年後は必要な検討はなにか、という検討を引き続きお願いしたい。

南本：担当副会長からコメントあれば、毎年重点事業の案を作っている。原嶋委員長の会員からの意見聴取を参考に検討した。ラインワークスにあげるので一読していただきたい。検討と書いてあるのは部局や委員会で検討をして頂きたい。書かれていなくても関係するものとして事業的にあれば、今後の2021年度の事業計画に組み入れて貰えればと思う。大きくは生涯学習システムが2022年度から変わる。県民からの相談は協会でもアプリを作ってやれるように、今回の重点項目・重点事業にもあげられていたので県士会にも落とされるだろうということで上げた。皆さんからの意見やアドバイスを頂きたい。

【財務局】9月末までの会計収支報告について

議長 の求めに応じ、本宮財務局長から資料に基づき『9月末までの会計収支報告』について報告があった。

本宮：上半期の決済状況について、9月30日まで分の収入の部門は経常収益が408万程で予算より少ない収入になっている。会費の170万と学会収入230万がある。経常費用は4,900万ほど余っていて12%ほど余っている。管理費のところ、利用率は40%くらい。令和2年度の黒字額は昨年度からの繰越を合わせ5,700万ほどある。出納部の残金がなくなっている。下半期予算を使わない部署があれば早めに返金をお願いすることがあると思う。その際はラインワークスで報告する。

南本：私から審議についてお願いがある。できるだけ早めに承認を出したいが、決断できない内容のことがあるが、質問や意見はどんどんあげてもらい、審議にあげたら早めに返信をください。そのほか、全体を通して質問意見あれば。

前園：特になし。

清宮：特になし。

南本：学会1月にあるがポイントにならない。代替え手段を検討。

清宮：協会でもどうしようかとの事。

田口：1月～3月の研修はポイントにならないという話。協会からお達しがあった。来年の12月までに実施されないと生涯学習ポイントとして開催されない。学会はなんとか押してもらっているが、通常の研修会は12月までで計画を立ててもらえれば。

清宮：前倒してやってもらいたいというのが協会の運営側の意向。

以上をもって議案の審議等を終了したので、22時、議長は閉会を宣し、解散した。

この議事録が正確であることを証するため、出席した代表理事及び監事は記名押印する。

会長 _____ 印

監事 _____ 印

監事 _____ 印